

## トビウオ通信 (H30 第4号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

### 《平成30年度第1回日本海スルメイカ漁況予報》

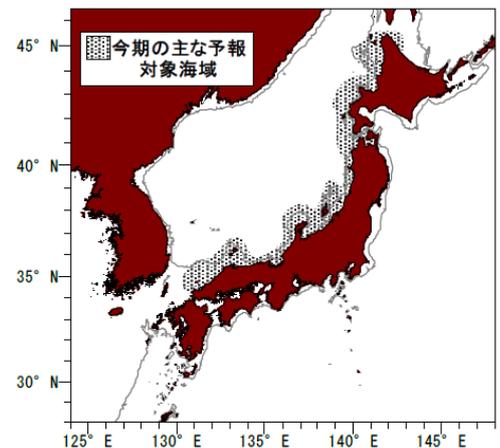
平成30年4月27日に国立研究開発法人水産研究・教育機構（日本海区水産研究所）より「平成30年度第1回日本海スルメイカ長期漁況予報<sup>※1</sup>」が発表されました。今回はその概要と島根県沖でのこれまでのスルメイカ漁況を紹介します。

#### 今後の見通し(平成30年5月～7月)のポイント

対象魚種：スルメイカ  
対象海域：日本海沿岸域  
対象漁業：主にいか釣り漁業  
対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：前年並で近年平均を下回る。
- (2) 漁期・漁場：主な漁場は本州北部日本海以北で  
漁期は近年同様。

\* 近年は最近5年間(平成25年～平成29年)



#### (1) 来遊量

平成29年10月～11月に実施された日本海スルメイカ幼生分布調査では、スルメイカの幼生分布量は平成28年並みであり近年平均を下回る状況でした。また、平成30年4月に実施された漁期前調査（スルメイカ新規加入量調査）では、今期に漁獲が期待されるサイズのスルメイカの分布量は、不漁であった前年を上回り・近年平均を下回る状況でした。こうした調査結果から、今期（5月～7月）の来遊量は「不漁であった前年並で近年平均を下回る」と予測されています。

#### (2) 漁期

漁期については、対馬暖流域における今後（4月～6月）の表層水温及び水深50mの水温が「平年並み」（平年は過去30年の平均値）で経過するとの海況予測（平成30年度第1回日本海海況予報<sup>※2</sup>、国立研究開発法人水産研究・教育機構、平成30年4月6日公表）から「本州北部以

北を中心とする漁場における漁期の開始時期は近年同様」と予測されています。

※1～2 は以下でご覧ください。

※1 : [http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2018/20180427\\_n/index.html](http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2018/20180427_n/index.html) (水産研究・教育機構のホームページより)

※2 : <http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2018/20180406/index.html> (水産研究・教育機構のホームページより)

## 島根県沖でのスルメイカ漁況

主要3港(浜田、西郷、恵曇) ※3 における小型イカ釣(5トン以上30トン未満)によるスルメイカの月別の水揚げ動向を図1に示しました。平成30年の1月～2月までの水揚げ量は86トンで、過去最低の水準であった前年は上回りましたが、近年平均(過去5年)を大きく下回る漁況で経過しています

(前年比2467%、近年平均比31%)。

これは、スルメイカの産卵期における海水温等の条件が悪く、新規の加入量が少なかったことが原因であると考えられています。スルメイカは1年魚であるため、それらの好条件が揃えば、今後、スルメイカ資源が回復する可能性もあるため、注視していく必要があります。

※3 : 浜田は属地、西郷及び恵曇は属人のデータを集計。

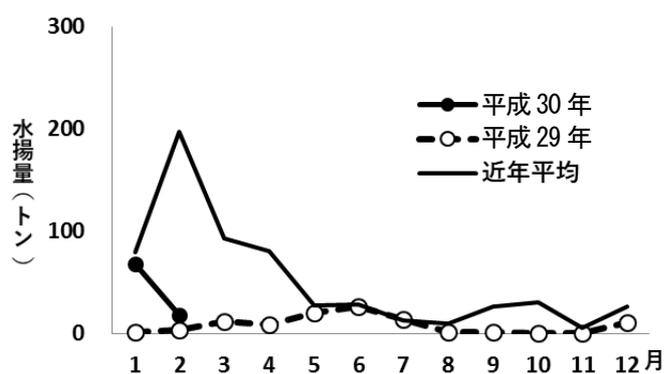


図1：主要3港におけるスルメイカの水揚げ動向